

ナブテスコ株式会社

2024年12月期第2四半期 決算説明会資料

2024年8月8日
代表取締役 社長兼CEO
木村 和正

2024年12月期 上期実績

- 連結売上高：1,525億円（前年同期比 -6.4%）
- 連結営業利益：64億円（前年同期比 -26.0%）

2024年12月期 通期計画

- 連結売上高：3,237億円（4/30公表 修正計画比 ±0%）
- 連結営業利益：135億円（4/30公表 修正計画比 ±0%）

セグメント別の業績予想値は変更しています。

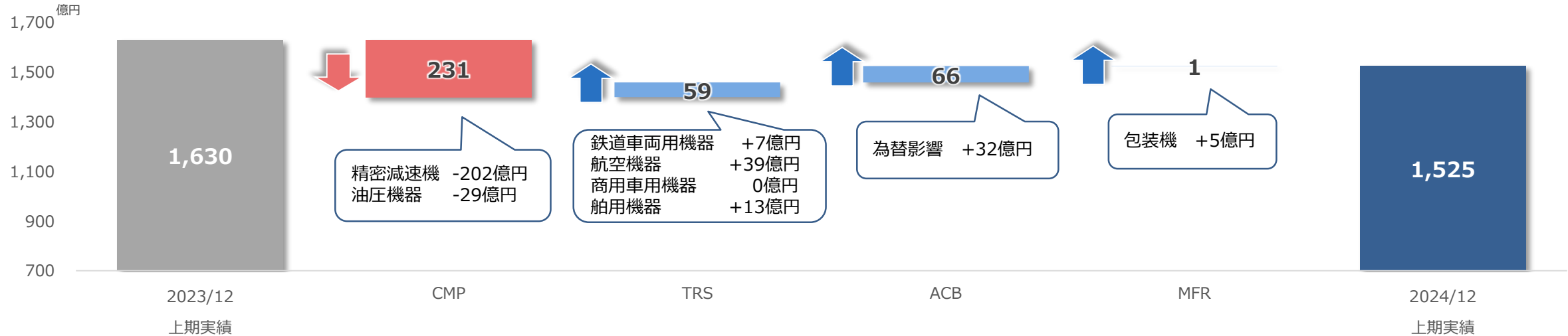
利益ある成長実現に 向けた取り組み

- Project 10の進捗
- 既存事業の成長（TRS）
- 新規開発
スマートモーションコントロールへ：事業間シナジーによる電動化促進

2024年12月期 上期実績

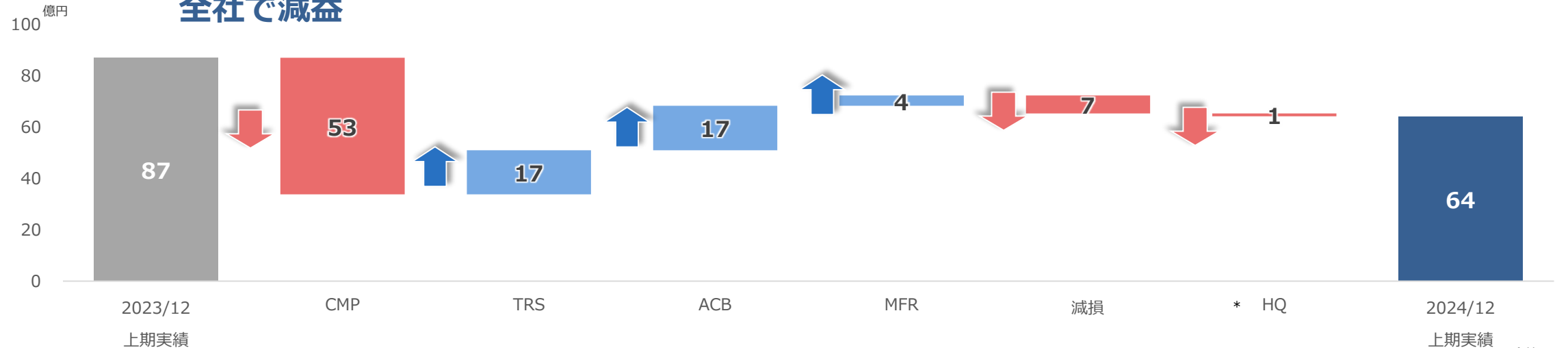
売上高

■ TRSやACBでの需要好調による増収はあるものの、主に精密減速機の需要減少を受け全社で減収



営業利益

■ TRSやACBの増収による増益があるものの、CMPでの減収による減益や減損の影響により、全社で減益



*: 全社又は消去

■ 前年同期比では減収減益、計画比ではMFRでの減損はあったものの経費抑制等により利益は大幅に改善

(単位：億円)	2023年12月期 上期実績 (A)	2024年12月期 上期計画 (4/30) (B)	2024年12月期 上期実績 (C)
売上高	1,630	1,515	1,525
営業利益	87	50	64
(営業利益率)	5.3%	3.3%	4.2%
金融損益	45	4	10
(うちHDS ^{*1} 評価損益)	35	-	-
持分法投資利益	23	1	4
税引前利益	155	55	78
当期利益 ^{*2}	95	23	42
一株当たり当期利益 (円)	78.74	19.16	35.01
中間配当 (円)	40	40	40

前年同期比 増減額 (C-A)	上期計画比 増減額 (C-B)
-105	10
-23	14
-1.1pt	0.9pt
-35	6
-	-
-19	3
-76	23
-52	19

*1 HDS : Harmonic Drive Systems
*2 親会社に所属する当期利益

■ 浜松工場での設備投資により資産が増加。また円安影響により資本も増加

(単位：億円)	2023/12 期末 2023年12月31日	2024/12 上期末 2024年6月30日	差異	
資産	4,221	4,333	113	
（現預金等）	778	782	3	
（売上債権）	828	789	-39	
（棚卸資産）	510	584	75	
（非流動資産）	2,012	2,097	85	非流動資産の増加は設備投資（浜松工場）によるもの
負債	1,462	1,479	18	
（借入金）	216	318	102	
資本	2,759	2,854	95	
（自己株式）	-39	-36	3	
（非支配持分）	154	173	19	非支配持分の増加は為替変動によるもの
親会社の所有者に帰属する持分	2,605	2,681	76	
親会社所有者帰属持分比率：	61.7%	61.9%		

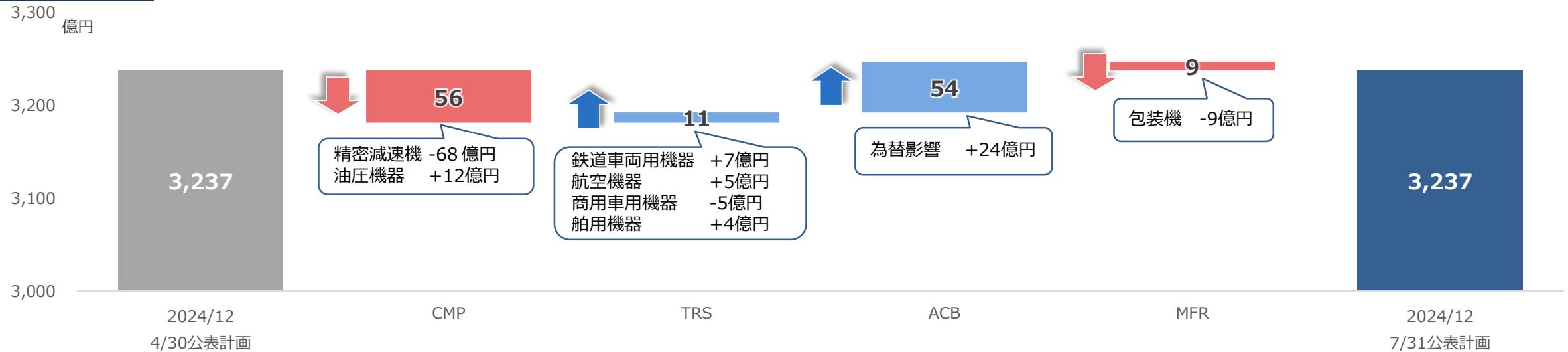
2024年通期計画見直し

事業			市場環境	市場動向 (期首予想) ⇒ (下期予想)
CMP	精密減速機		産業用ロボット向け需要は中国を始めとした景気悪化に伴う投資停滞と完成ロボットの在庫調整が継続。市場の本格回復は2025年にずれ込む見込み	 ⇒ 
	油圧機器		中国市場は引き続き需要停滞 欧米需要も景気減速に伴い低迷継続	 ⇒ 
TRS	鉄道車両用機器		国内市場は新車向け投資が回復し、MROも堅調維持 インドネシアをはじめアジア・欧州での新規案件が増加	 ⇒ 
	航空機器		民間航空機向け需要は旅客需要回復に伴い、新機・保守ともに増加 防衛向け需要は防衛予算拡大の影響を受け大幅に増加	 ⇒ 
	商用車用機器		国内市場は物流業界での運転手不足等の影響があり需要停滞傾向 東南アジア市場の経済停滞等による需要減少	 ⇒ 
	船用機器		好調な造船・海運市場により新造船向け・MROともに需要が増加 低燃費・自律航行に向けた市場のニーズも拡大	 ⇒ 
ACB	自動ドア		建物用ドア：国内市場は都心再開発等により好調な需要継続 欧米市場は成長鈍化で新規需要は停滞も更新需要が堅調 プラットフォームドア（PD）：バリアフリー法もあり国内の需要好調継続	 ⇒ 
MFR	包装機		食品メーカーを中心に自動化・省人化の高いニーズはあるものの、 一部投資案件での投資時期見直しの影響あり	 ⇒ 

PD : Platform doors

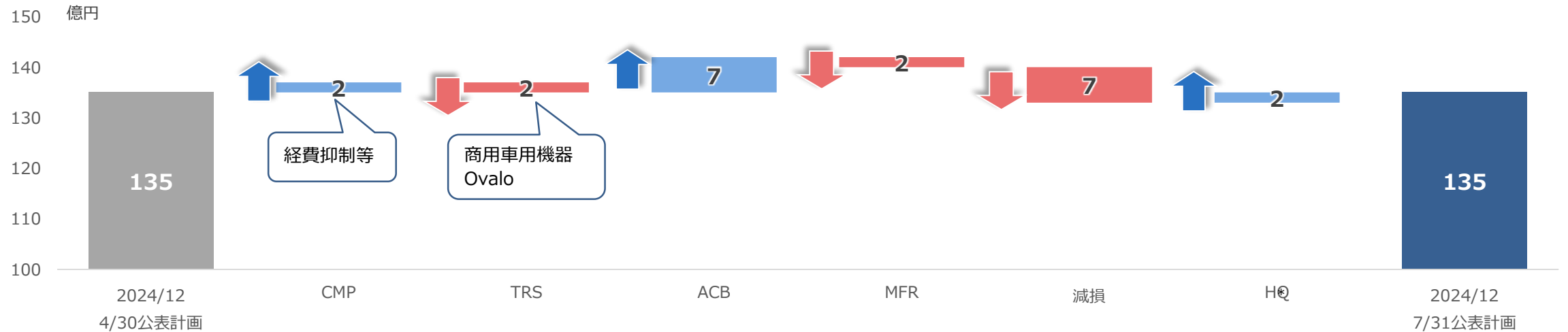
売上高

■ 精密減速機は需要回復時期が想定よりも遅くなる見込み。為替を踏まえ通期計画を修正



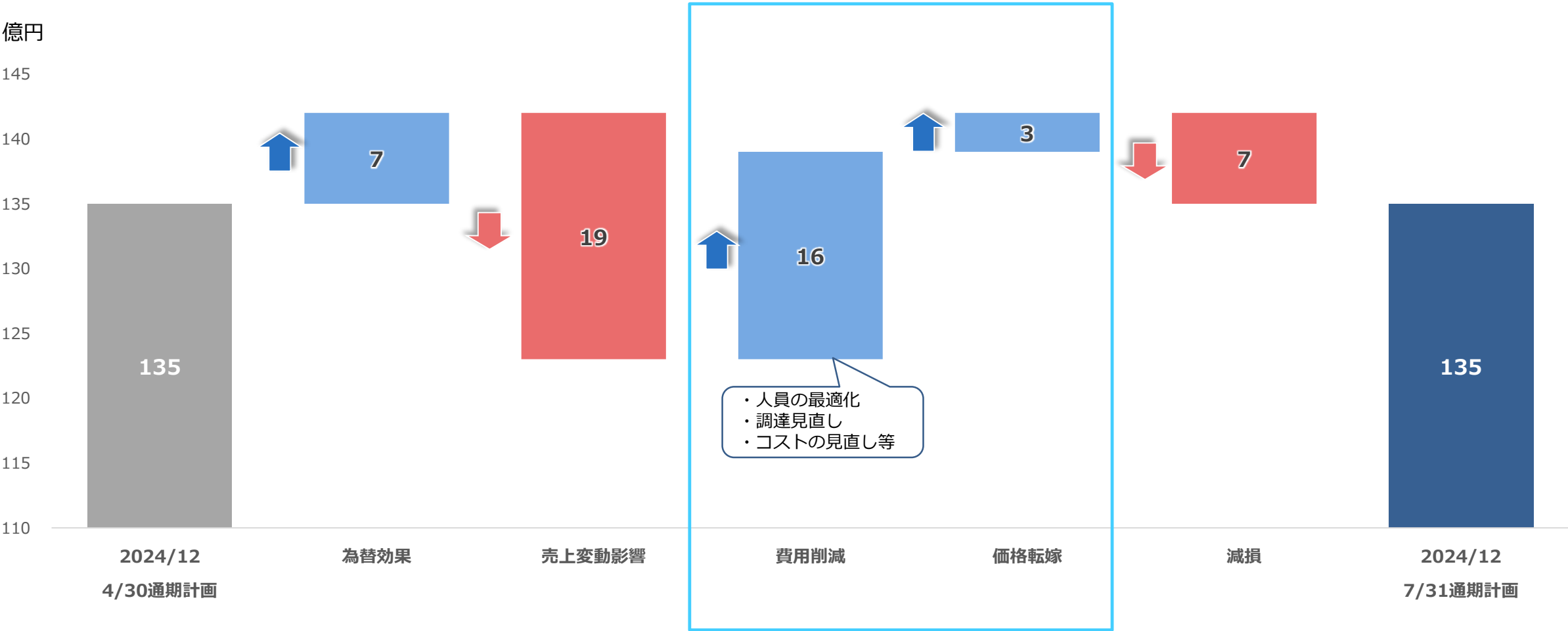
営業利益

■ 減損はあるもののACBの増収による増益等で全社の利益計画は維持



*: 全社又は消去

■ 減収によるマイナス影響を費用抑制や追加の価格転嫁により利益計画を維持



利益ある成長実現に向けた取り組み

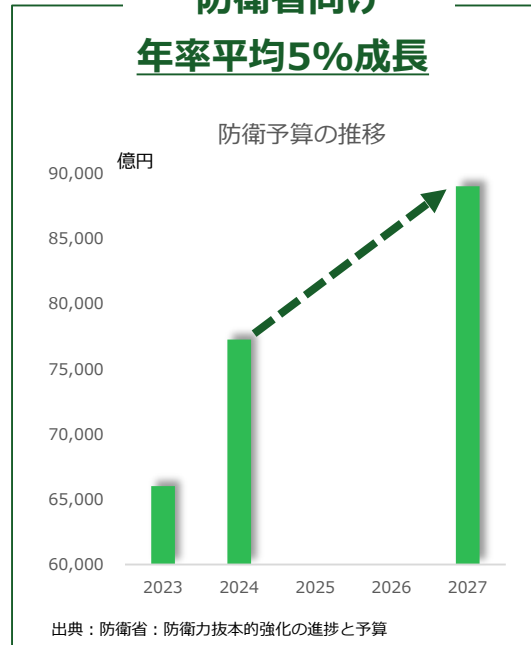
■ 2024年12月期の営業利益の見通しが当初計画と比較し0.4pt改善。利益改善施策が寄与。

2026年までの利益率改善 (対2024年期首計画)	2024年の具体的なアクション	施策の効果発現		年内改善幅 (24年期首計画比)
		短期	中期	
①既存事業の利益率改善 +5.0pt ●CMPの利益率改善に注力 2.8% → 11.0% -価格転嫁： -コスト削減 -稼働益最大化 ●他事業での利益率改善 -コスト見直し -事業成長による売上増加	・経営トップ主導の値上げ交渉 ・作業行程の見直し等による生産性の改善 ・浜松工場稼働による高自動化ライン活用 ・FA拡販のためのインド・タイ向け営業強化 ・油圧機器中国市場の生産能力見直し ・各事業でのコストの見直しや選別			+0.3pt
②固定費適正化 +0.7pt イノベーション投資は継続し、DX等の業務改善や投資の厳選により固定費を抑制	・本社費の見直しや選別 ・2026年までの開発投資アイテム選別開始 ・DX推進による業務効率改善			+0.1pt
③新規事業の貢献 +0.3pt システム化製品など高収益事業の展開の加速	・OVALOのコボット向け拡販戦略遂行 ・コト売りへの転換Deepsea、CMFS			

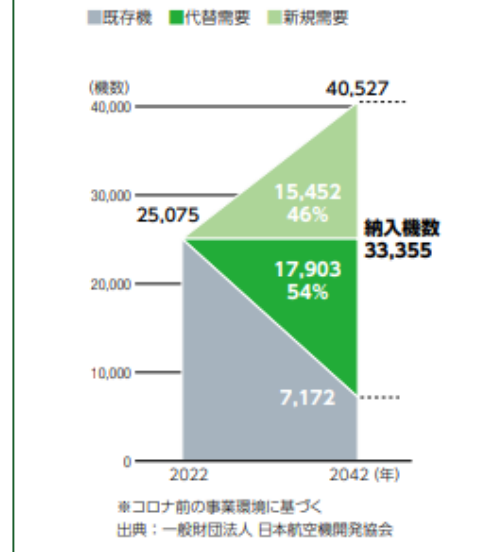
■防衛・民間向けともに市場成長が期待できることに加え、拡販施策や生産効率改善により更なる成長を目指す

[市場環境]

防衛省向け 年率平均5%成長

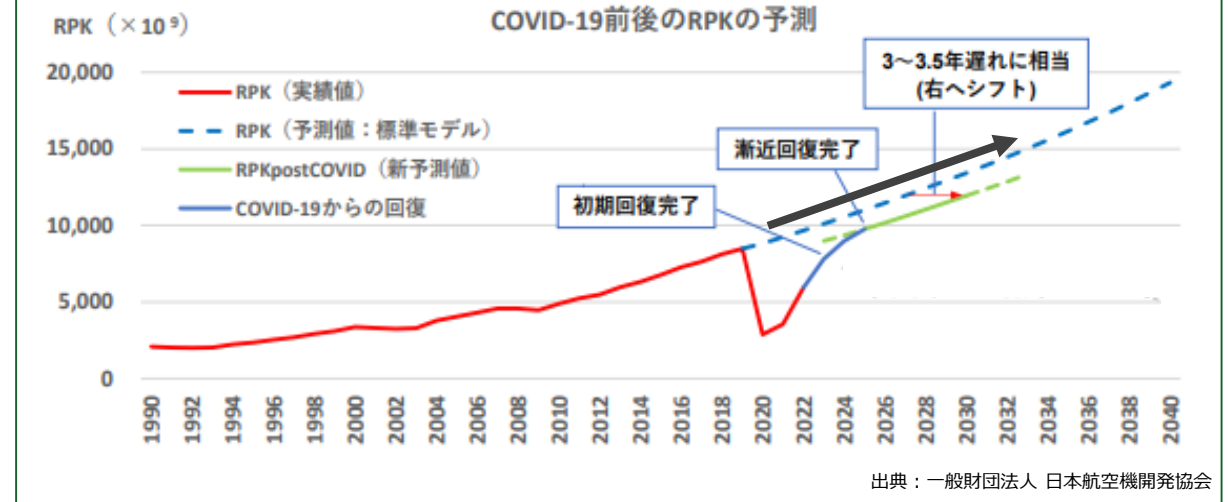


民間航空機（機体） 年率平均2.5%成長



民間航空機（MRO）

RPKの伸び(年率平均4%成長)とともに需要拡大

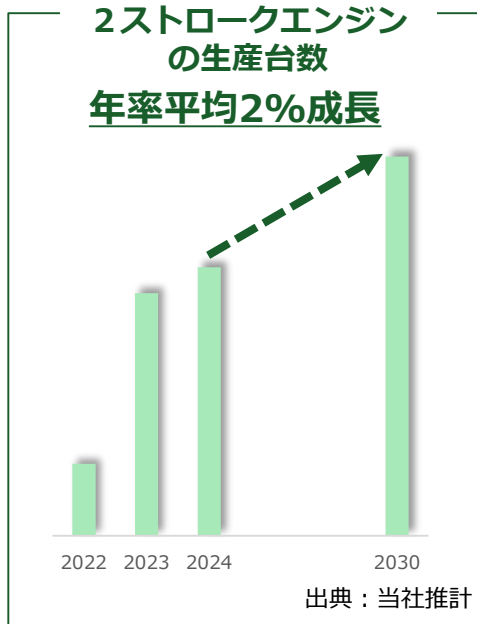


[当社の取り組み]

- ・ 新規プログラムの確実な受注および採用品目増加によるビジネス拡大
- ・ 需要増加に応えられるサプライチェーン及び高効率な生産体制の構築
- ・ フライトコントロールアクチュエーションシステムによる空の次世代モビリティへの参入

■ 新造船向け増加や環境規制の強化に伴う需要継続、自動運行サポートシステムの拡販を目指す

[市場環境]



IMO GHG 削減戦略改定

● 達成を目指す目標

2050年頃までにGHG排出ゼロ
(旧2050年までに50%排出削減)

● 達成のための今後の削減目安

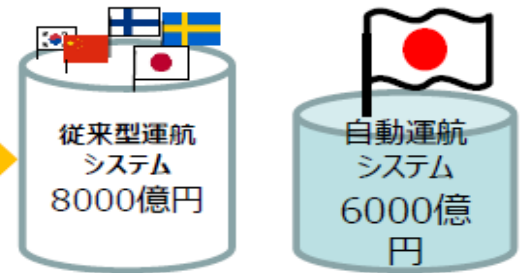
- ・ 2030年までにGHG排出量を20～30%削減(2008年比)
- ・ 2040年までにGHG排出を70～80%削減(2008年比)

自動運航システム市場

運航システム（既存のオートパイロット等含む）市場規模



2030年
従来型 VS 自動運航システム市場



2030年には運航システム市場が1.4兆円規模に成長。うち6000億円は自動運航システムが占める見込み

出典：国土交通省 自動運航船の実用化に向けて～開発実証と基準戦略

[当社の取り組み]

- ・ 強化される環境規制に対応する製品開発による更なる成長



電子制御油圧バルブ



水素用主室ガスバルブ

- ・ 自動運航システムの認証取得による販売促進



TELEGRAPH
AGENT™

船舶運航

-スピード計画
-ルート計画

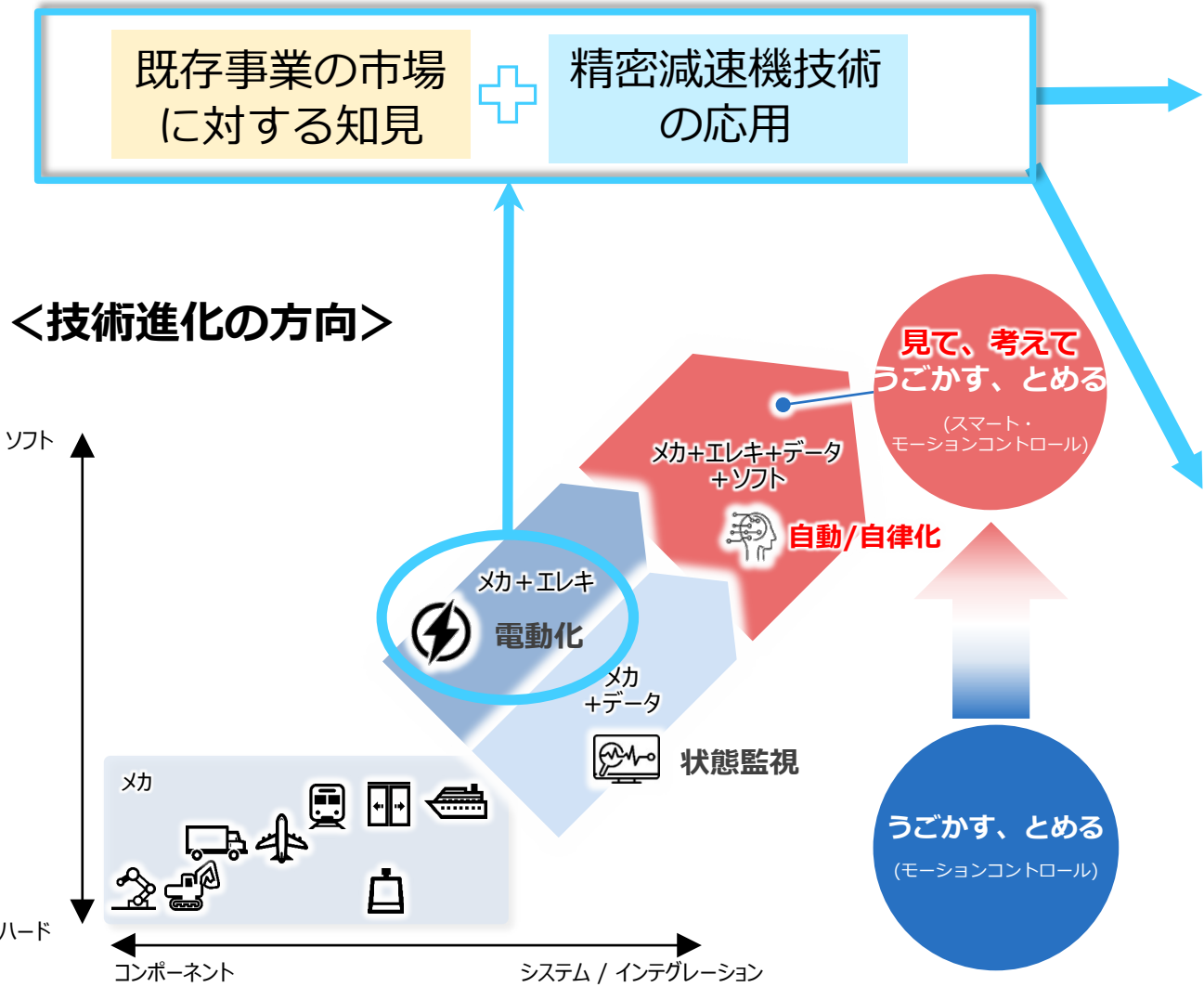
Pythia

船体

メンテナンス
メインエンジン
稼働状況

Cassandra

■スマートモーションコントロール実現に向けた取り組みの一つである電動化を、精密減速機技術を応用して促進



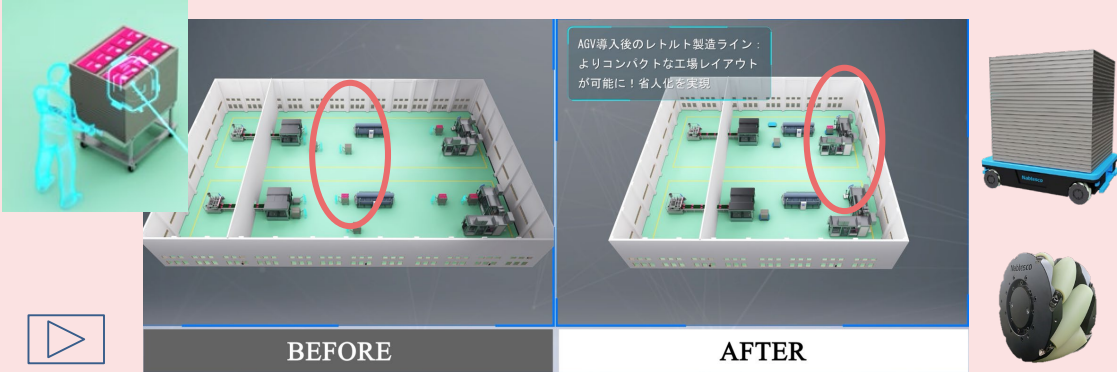
事例1 油圧機器：建設機械の電動化対応

ミニショベル向けの電動ショベル
アクチュエーターを開発
2024年9月18日から20日IFPEX
東京ビッグサイトにて製品展示予定
※詳細は2024年8月7日当社リリースを参照ください
URL:<https://www.nabtesco.com/news/20240807-15475/>



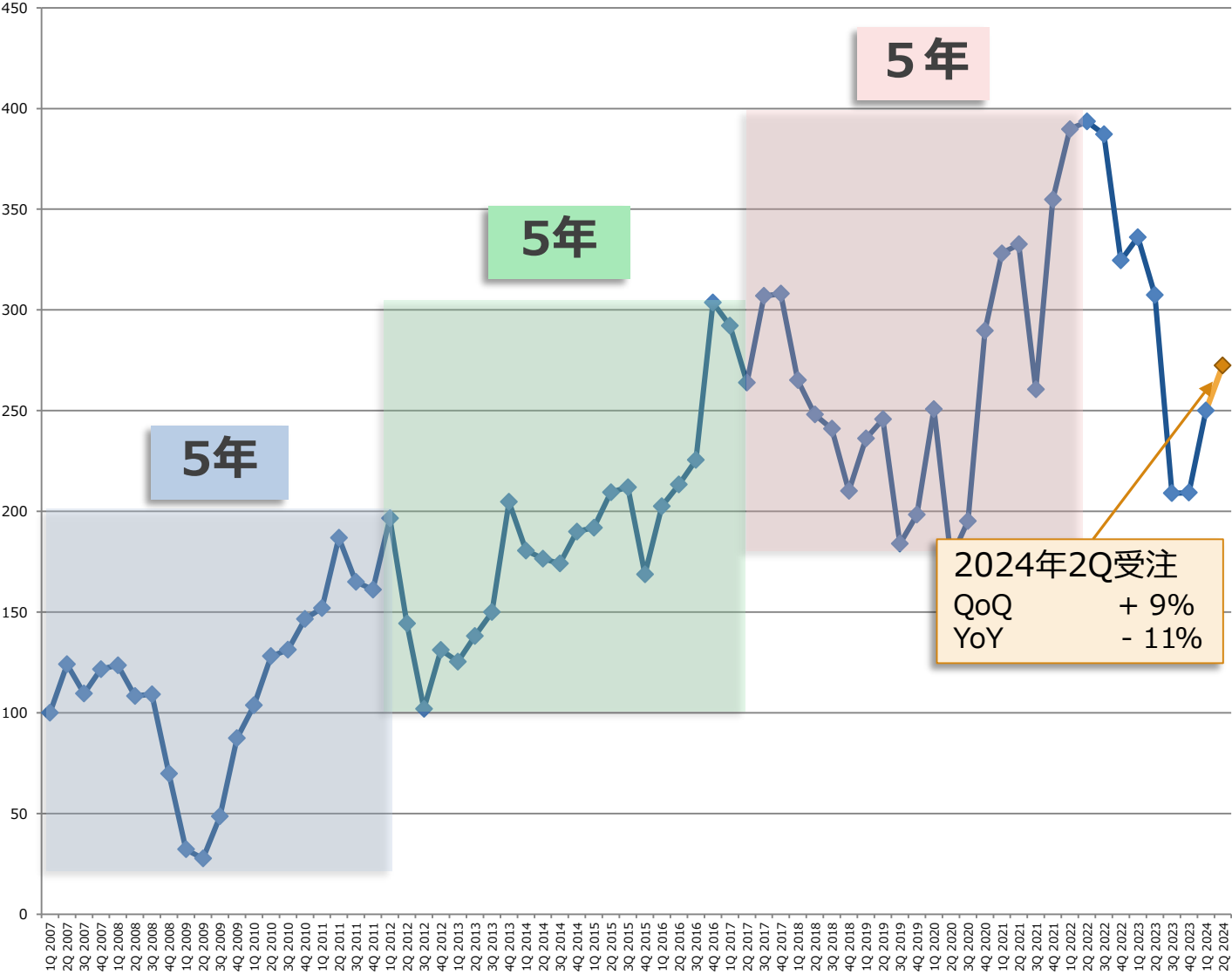
事例2 包装機：食品工場内の自動化ソリューション

精密減速機の技術を活用したメカナムホイール付きAGVを活用し、
工場の自動化・省人化・省スペース化のソリューションを提案



Appendix

《精密減速機 受注推移》



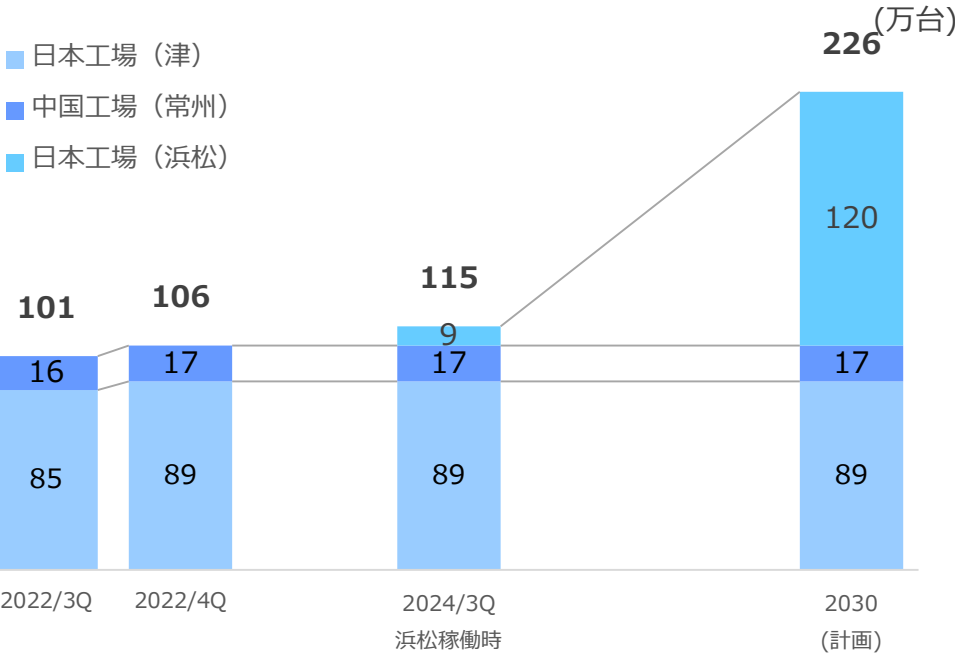
2007年1Q受注を100とした指数

《精密減速機生産能力》

グローバル定時生産能力:106万台/年産 2024年2Q

- 日本工場(津) 稼働率: 60%
(定時生産能力89万台)
- 中国工場(常州) 稼働率: 85%
(定時生産能力17万台)

収益性改善を目指し、2024年8月浜松工場稼働開始

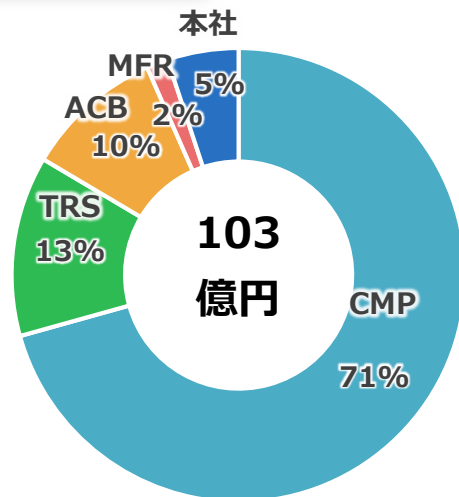


■設備投資は当初予定から変更なし

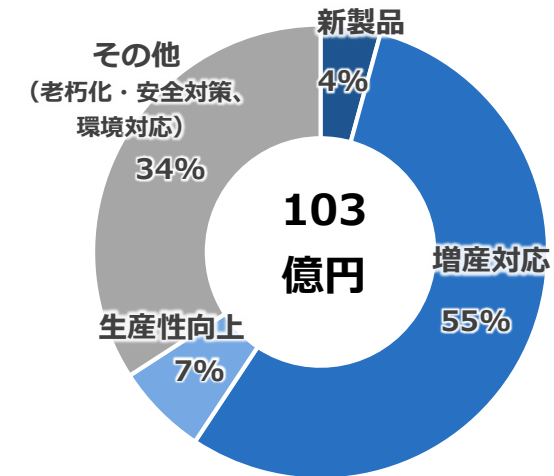
(単位：億円)	2023/12 上期実績 (A)	2024/12 上期実績 (B)	前年同期比 (B-A)
設備投資額	110	103	-7
研究開発費	54	56	2
減価償却費	74	78	4

2024/12 通期計画 7/31現在	2023/12 通期実績
275	297
140	110
156	155

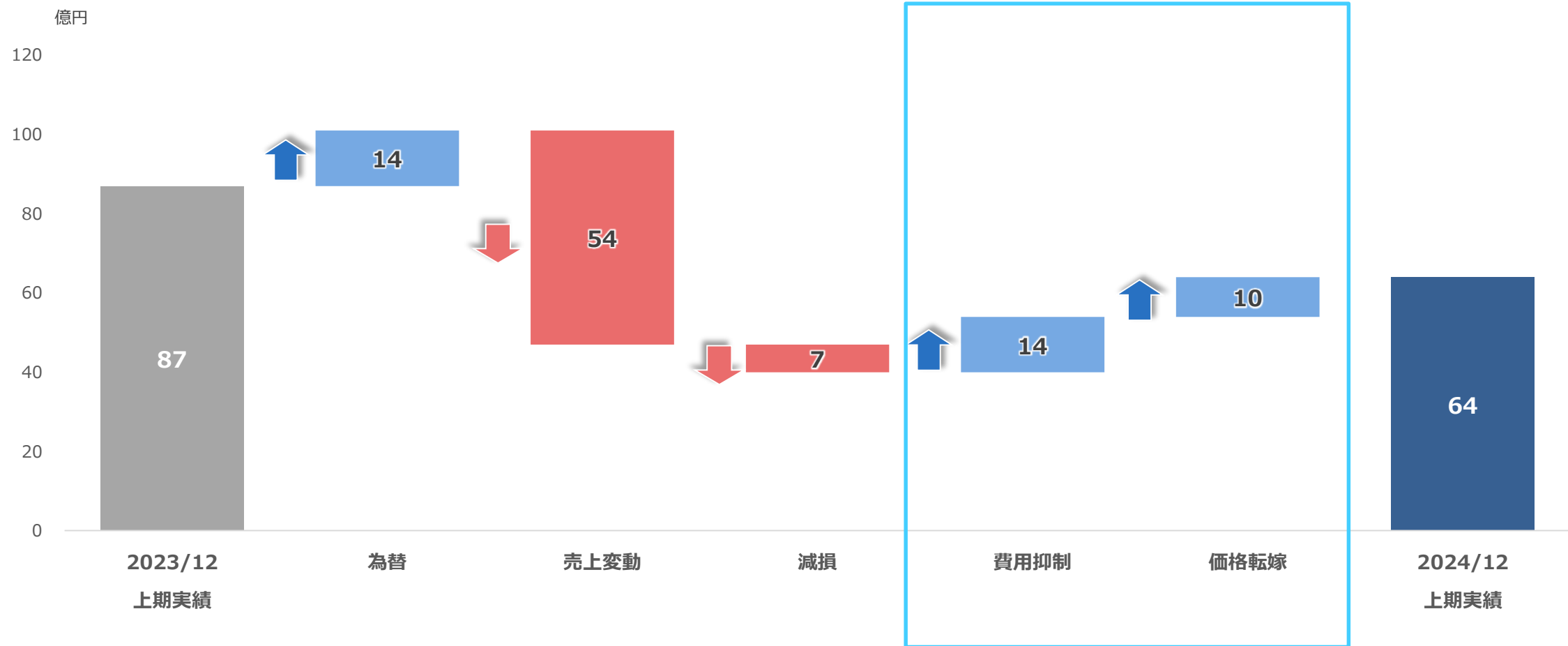
2024/12 上期実績



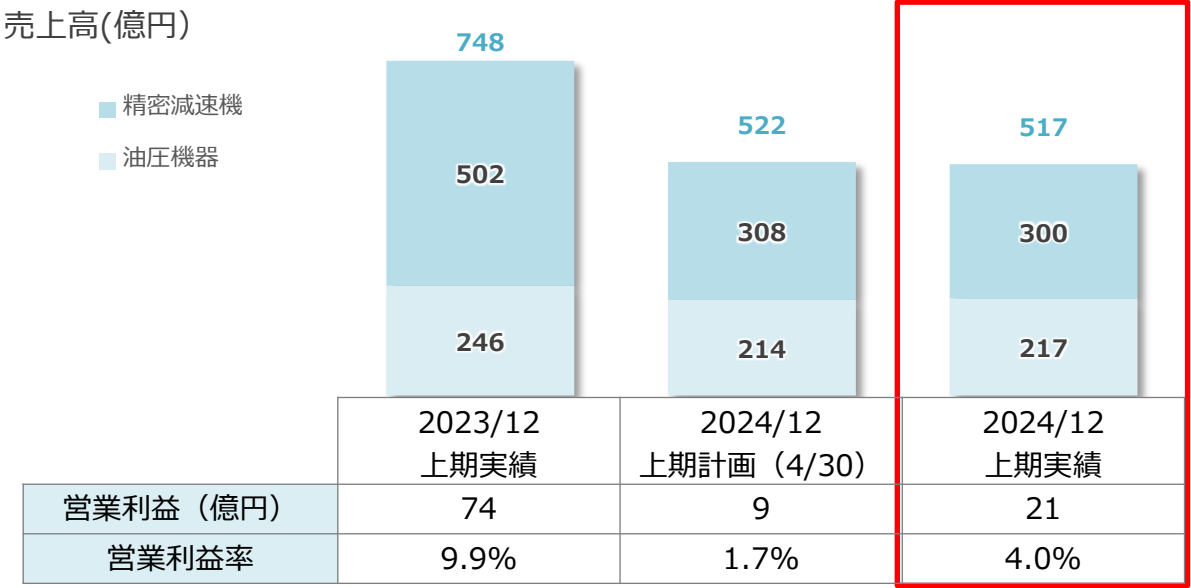
- 精密減速機
 - 浜松工場建設
 - 設備更新
- 油圧機器
 - 垂井工場建て替え工事
 - 環境対応設備導入



■ 主に精密減速機の減収による減益が大きく、費用抑制や価格転嫁を行うも減益となった。



コンポーネントソリューションセグメント（CMP）



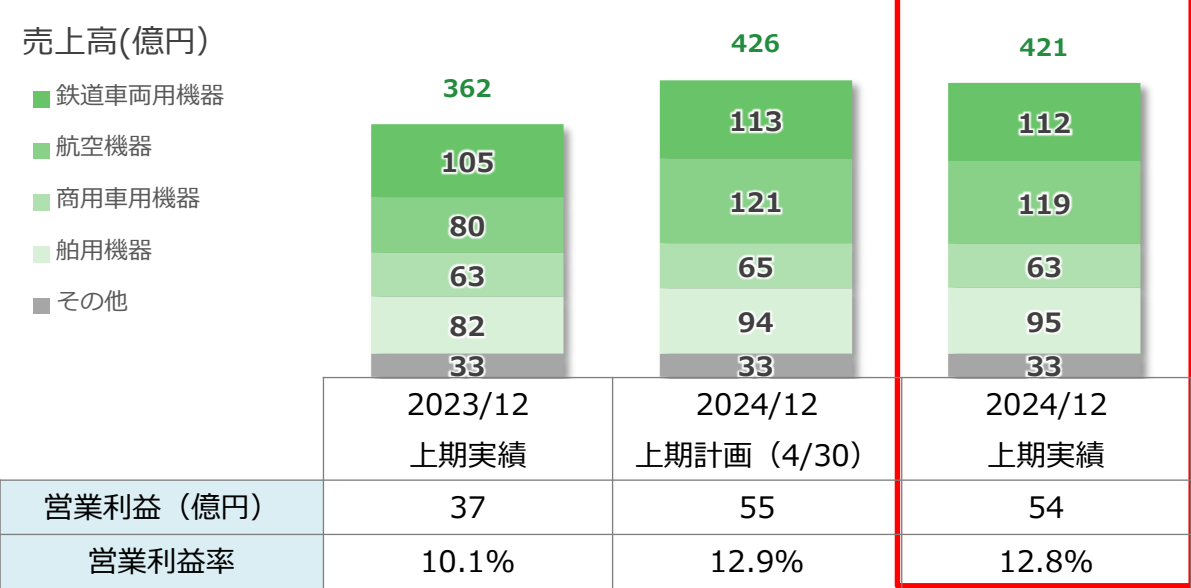
【売上】

- ・精密減速機事業：
最終需要が弱い状況継続。
完成ロボットの在庫調整も続き計画比減収
- ・油圧機器事業：
為替効果により計画比増収

【営業利益】

経費抑制や発生遅れにより計画比増益

トランスポートソリューションセグメント（TRS）



【売上】

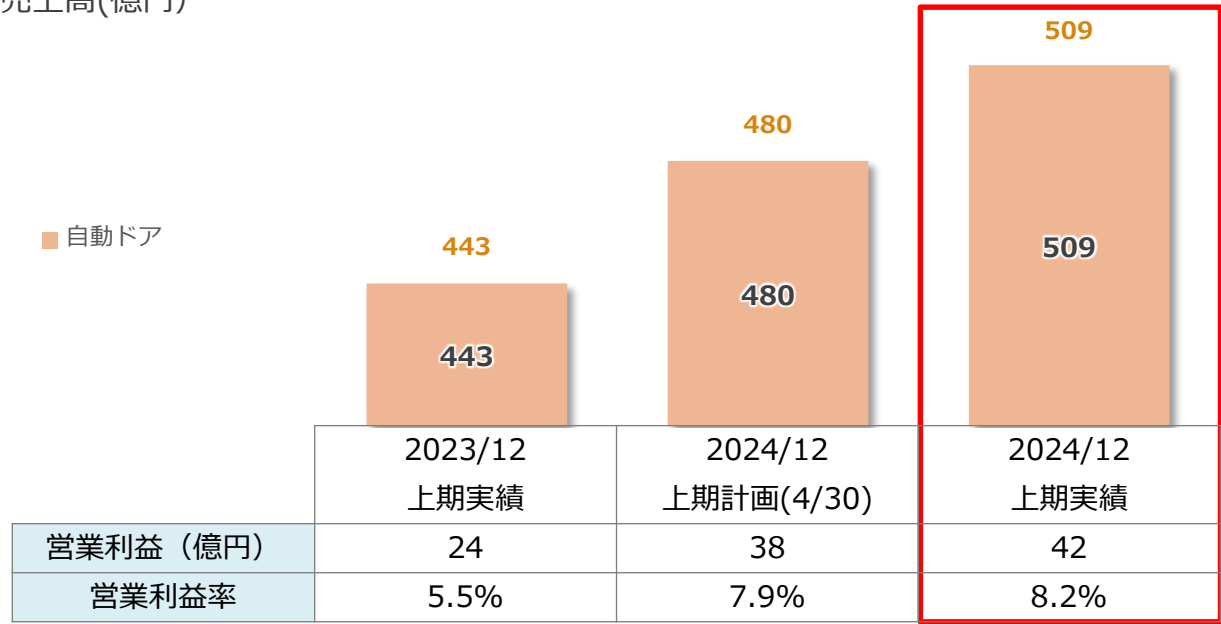
- ・鉄道車両用機器事業：
ほぼ計画並み
- ・航空機器事業：
民間向けで生産レート変更があり計画比微減
- ・商用車用機器事業：
国内・東南アジアの生産が想定よりも増加せず計画比減
- ・舶用機器事業：
為替により計画比増収

【営業利益】

減収による減益

アクセシビリティソリューションセグメント（ACB）

売上高(億円)



【売上】

・自動ドア事業：

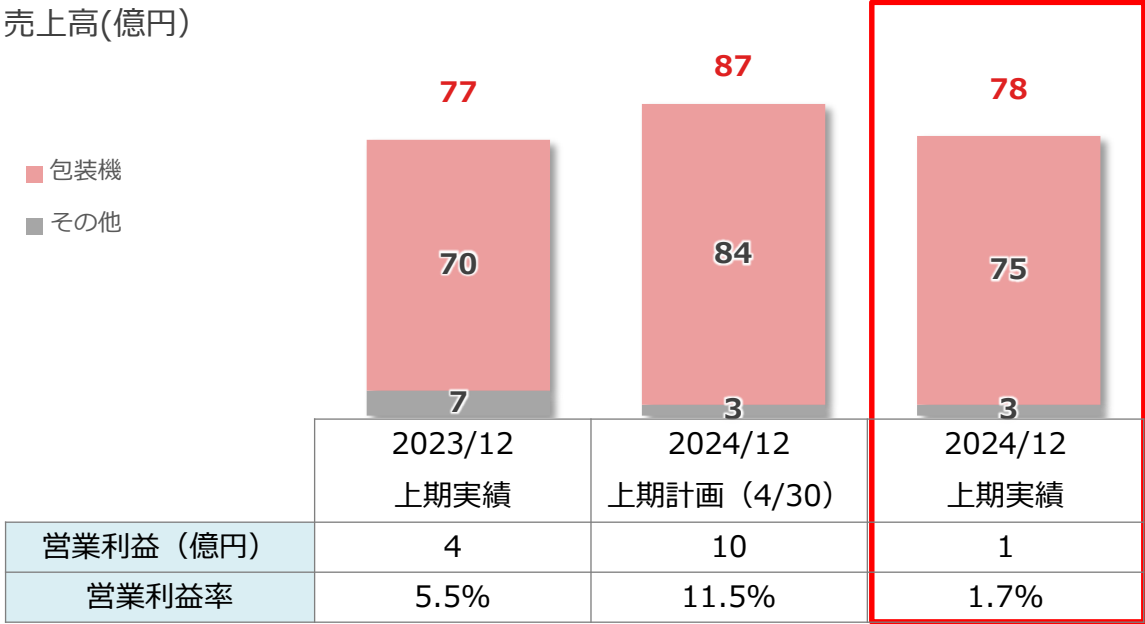
為替効果に加え、再開発案件を中心に国内建物用ドアの需要が堅調。
加えて欧州市場拡販が進み計画比増収

【営業利益】

増収による増益

マニファクチャリングソリューションセグメント（MFR）

売上高(億円)



【売上】

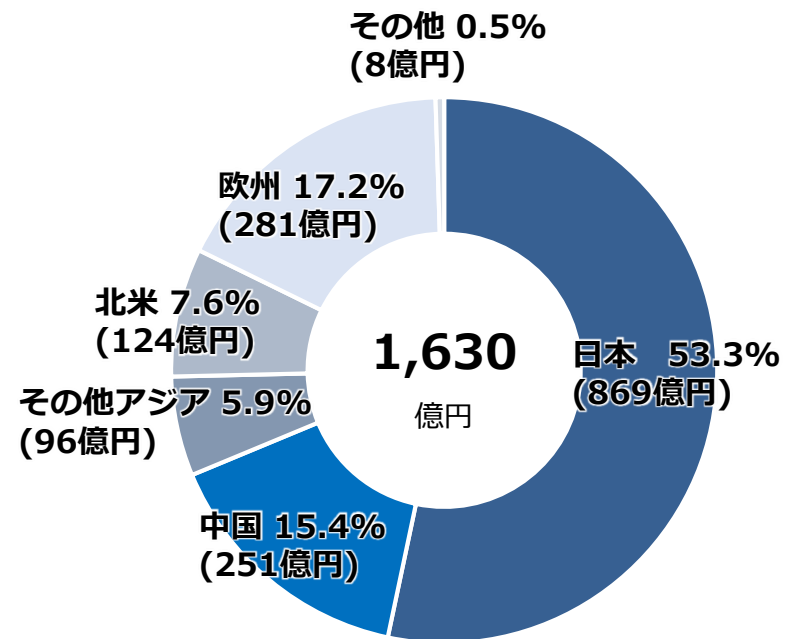
・包装機事業：

インフレ影響による消費冷え込みを警戒し、
食品向けを中心に設備投資時期の延期が発生し、計画比減収

【営業利益】

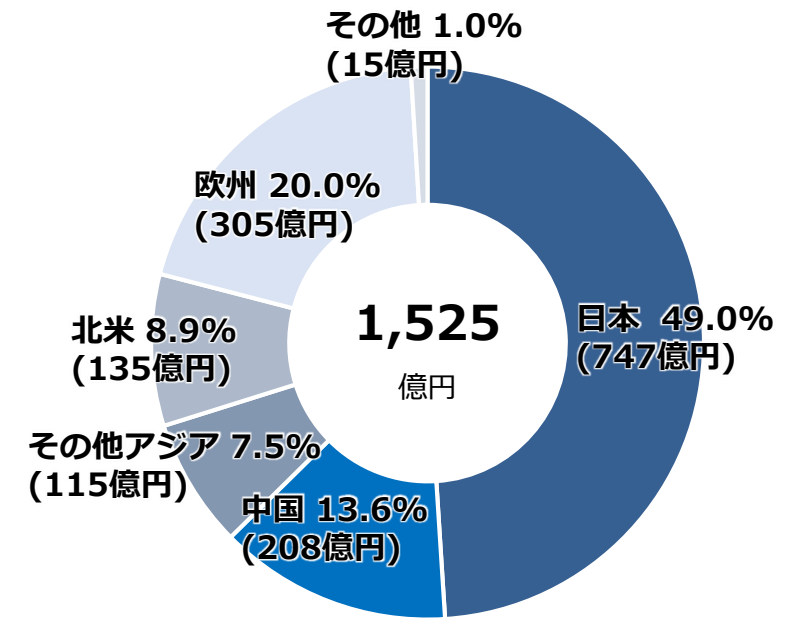
欧州連結子会社におけるのれんの減損(約6.6億円)を計上し、
計画比減益

2023/12 上期実績



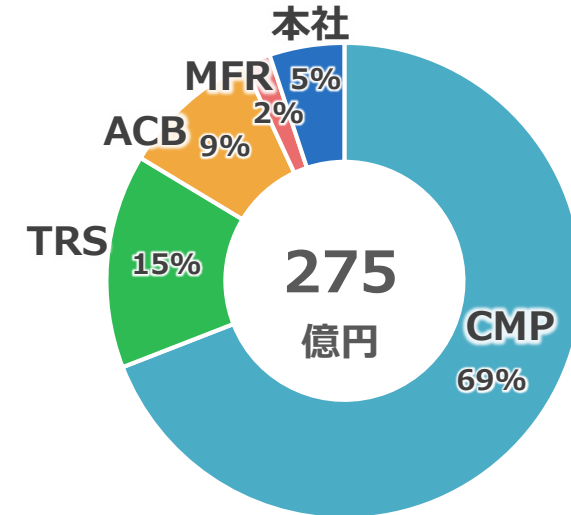
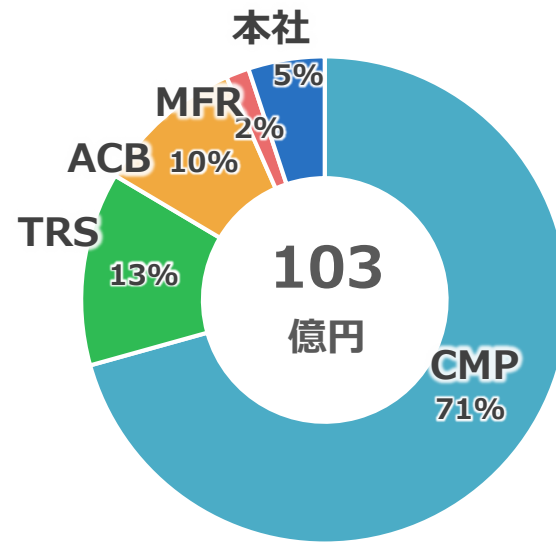
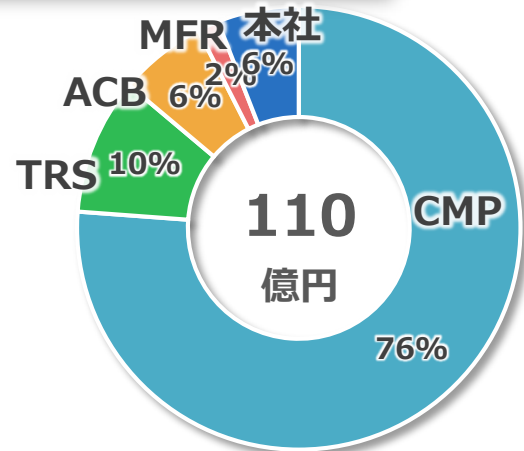
海外売上高	761億円
海外売上高比率	46.7%

2024/12 上期実績

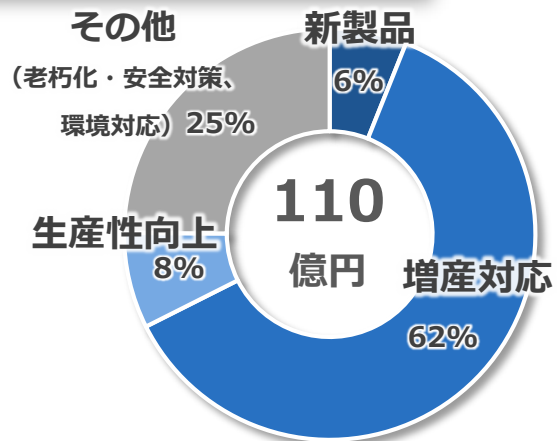


海外売上高	778億円
海外売上高比率	51.0%

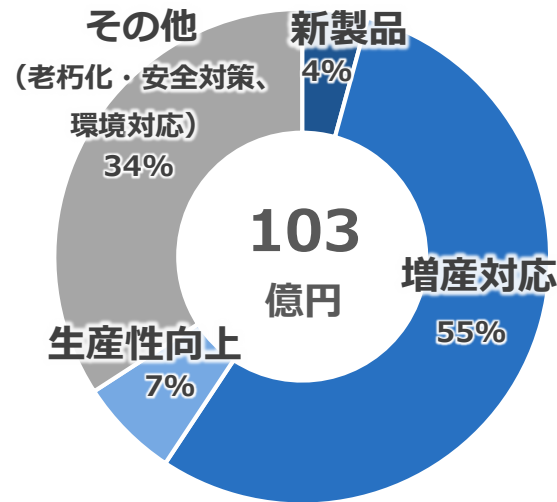
セグメント別



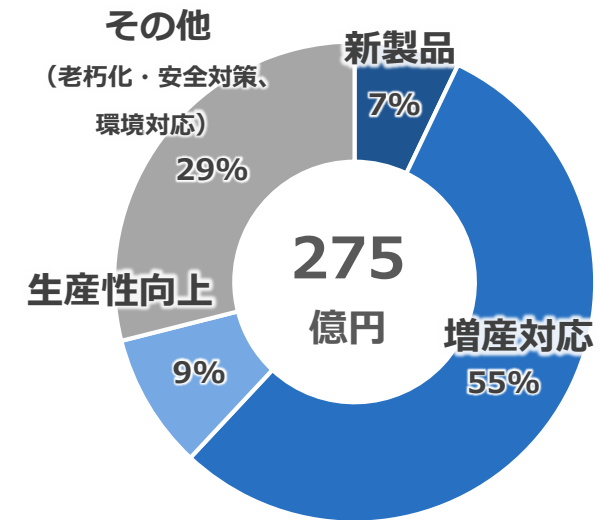
目的別



2023/12上期



2024/12上期



2024/12計画

■ 為替レート

(円)

	2023/12 上期実績	2024/12 上期実績	2024/12 期首計画	2024/12 7/31修正計画	2024/12 下期計画
USD	136.54	154.06	135.00	149.53	145.00
RMB	19.54	21.52	18.50	20.76	20.00
EUR	147.93	166.12	150.00	160.56	155.00
CHF	149.75	172.57	155.00	166.28	160.00

■ 為替感応度（為替が1円変動したときの影響額）

(百万円)

	2024/12 上期実績	
	売上	営業利益
USD	77	33
RMB	787	32
EUR	34	軽微
CHF	123	軽微

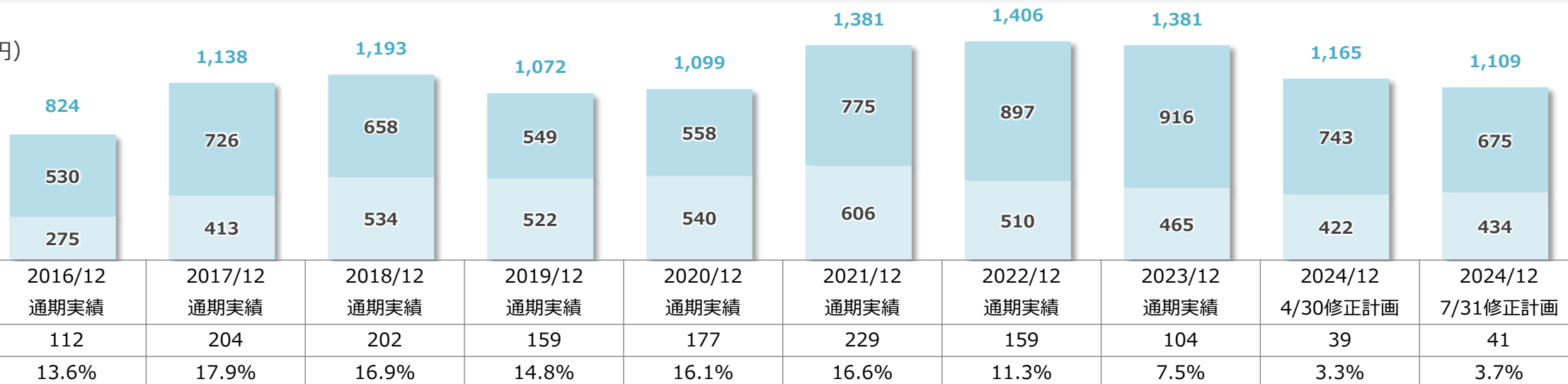
2024/12 7/31修正計画	
売上	営業利益
194	61
1,675	53
84	軽微
259	軽微

コンポーネントソリューションセグメント (CMP)

Innovation In Action
Vision 2030

売上高 (億円)

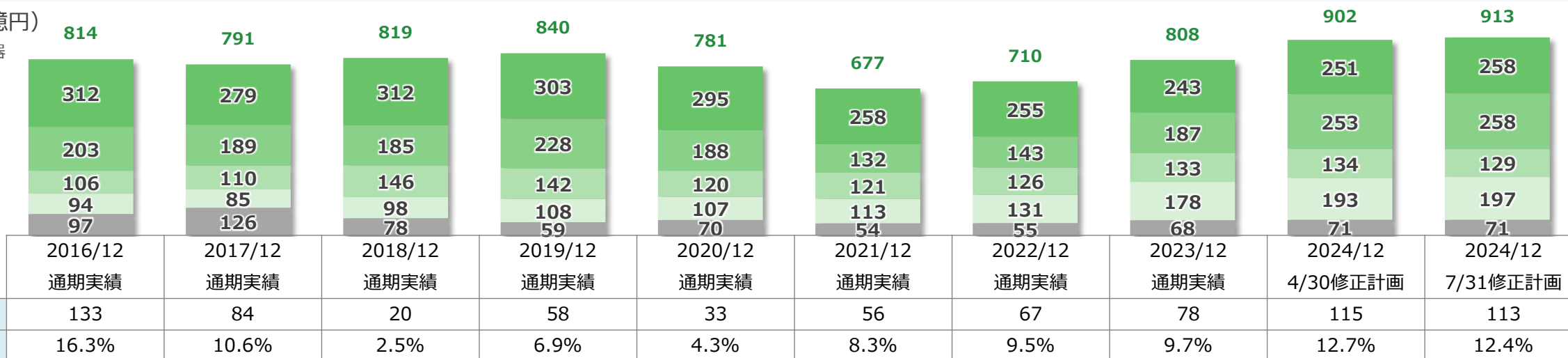
■ 精密減速機
■ 油圧機器



トランスポートソリューションセグメント (TRS)

売上高 (億円)

■ 鉄道車両用機器
■ 航空機器
■ 商用車用機器
■ 船用機器
■ その他

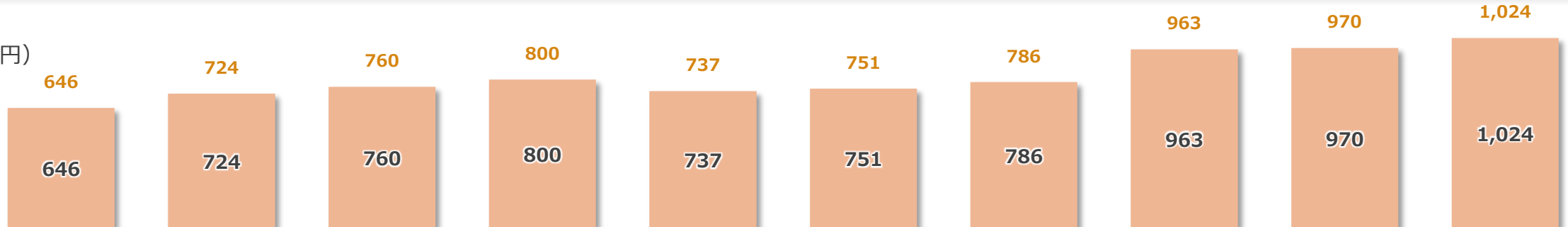


アクセシビリティソリューションセグメント (ACB)

Innovation In Action
Vision 2030

売上高 (億円)

■ 自動ドア



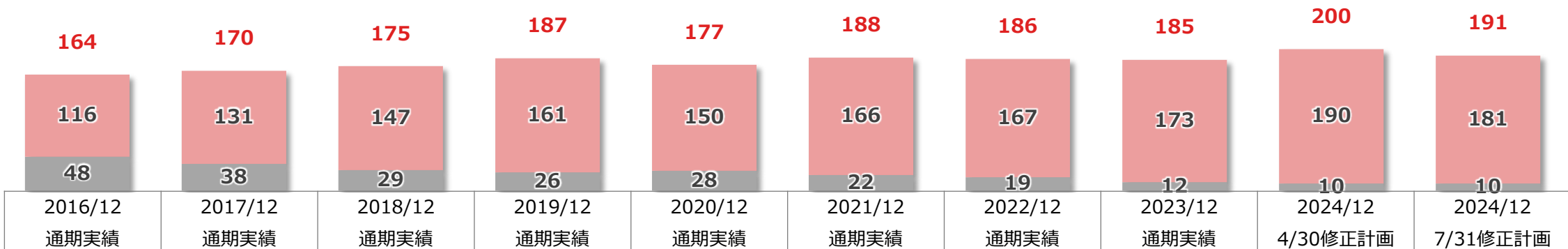
営業利益 (億円)	51	52	46	86	77	76	28	62	80	87
営業利益率	7.9%	7.1%	6.1%	10.7%	10.5%	10.2%	3.6%	6.4%	8.2%	8.5%

マニファクチャリングソリューションセグメント (MFR)

売上高 (億円)

■ 包装機

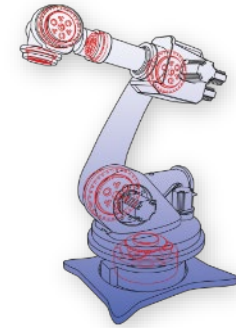
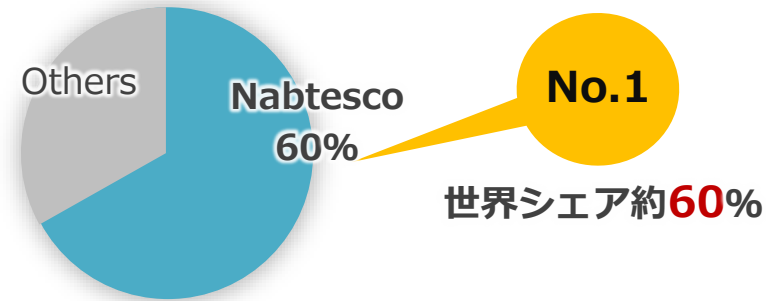
■ その他



営業利益 (億円)	15	20	25	26	23	27	15	34	25	16
営業利益率	9.2%	11.6%	14.0%	13.7%	13.1%	14.5%	8.0%	18.3%	12.5%	8.4%

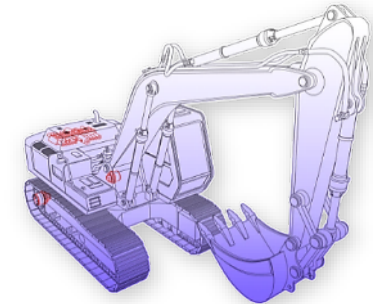
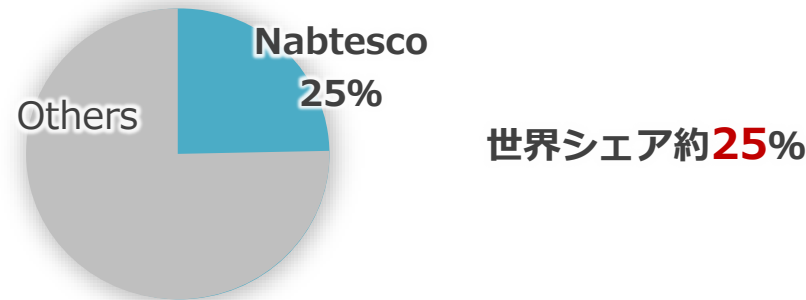
精密減速機

■ 中大型産業用ロボットの関節用途



油圧機器

■ 油圧ショベル用走行ユニット



主要顧客 (敬称略)

■ 精密減速機

産業用ロボット：ファナック、安川電機、川崎重工業、KUKA Roboter (独)、ABB Robotics (スウェーデン)

工作機械：ヤマザキマザック、オークマ、DMG森精機

■ 油圧機器

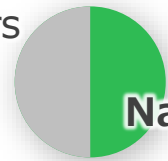
走行ユニット：コマツ、住友建機、コベルコ建機、Sany (中)、XCMG (中)、Liu Gong (中)

注：シェアは当社推計

鉄道車両用機器

■ 鉄道車両用ブレーキシステム

Others



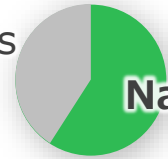
Nabtesco 50%

No.1

国内シェア約**50%**

■ 鉄道車両用ドア開閉装置

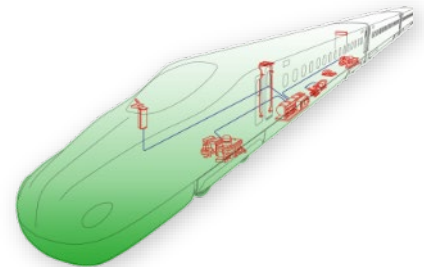
Others



Nabtesco 60%

No.1

国内シェア約**60%**



航空機器

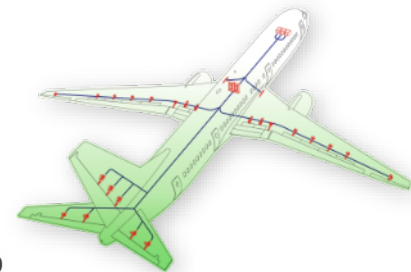
■ フライトコントロール・アクチュエーションシステム(FCA)



Nabtesco
100%

No.1

FCAの国産機
シェア約**100%**



主要顧客 (敬称略)

■ 鉄道車両用機器

JR各社、民鉄各社、日立製作所、川崎重工業、中国高速鉄道・都市交通向け

■ 航空機器

Boeing (米)、川崎重工業、三菱重工業、IHI、防衛省、エアライン各社

商用車用機器

■ 商用車用ウェッジチャンバー

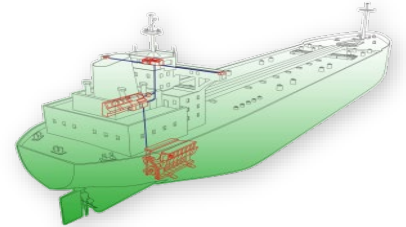


■ 商用車用エアドライヤー



舶用機器

■ 舶用エンジン遠隔制御システム



主要顧客 (敬称略)

■ 商用車用機器

いすゞ自動車、日野自動車、三菱ふそうトラック・バス、UDトラックス

■ 舶用機器

ジャパンエンジンコーポレーション、川崎重工業、マキタ、日立造船マリンエンジン、三井E&Sマシナリー
Hyundai Heavy Industries (韓)、Hudong Heavy Machinery (中)、HSD Engine Co., Ltd.(韓)

自動ドア

■自動ドア開閉装置



■プラットホームスクリーンドア



主要顧客 (敬称略)

各種建物用自動ドア：大手ゼネコン他建設工事会社、サッシメーカー、病院、銀行、公共機関

プラットホームドア：JR・民鉄各社、各国都市交通向け

マニファクチャリングソリューションセグメント (MFR) 主要製品

包装機

■レトルト食品用充填包装機



主要顧客 (敬称略)

■包装機

DM三井製糖、味の素、丸大食品、アリアケジャパン、ケンコーマヨネーズ、P&G、花王、ライオン、北米飲料メーカー、中国食品メーカー

うごかす、とめる。

Nabtesco

